

HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第15号 2009年10月発行

企業支援／ハウスサポータープロジェクト09：バンコクでの住居建築作業完了！！

全国各地より集まったボランティア（第一陣15名、第二陣17名）がタイ、バンコクでの各住居建築活動を終え、このほど帰国しました。チーム名はその名も“JAPAN HOPE BUILDERS”！プロジェクト実施に際し、今回、大和ハウス工業株式会社から財政的ご支援を頂き、そして現地では日本人チームが建築活動を行うという、まさに「ジャパンプロジェクト」が実現する格好となりました。また、もう一つのプロジェクトでは株式会社コスモスイニシアご有志一同とハウスサポーター個人3組のご支援を頂き、こちらも無事活動を終了しました。今回は、その一つ、プロジェクト第二弾（支援先：Niroot Soirayaさん一家）の様子を報告します。（事務局・山崎顕太郎）



ホームオーナー家族と一緒に

プロジェクト概要

バンコク市内から車で約1時間程北へ向かった郊外にPathumtaniという地区があります。タイにおけるハビタットの活動は東西南北とエリア区分して各支部ごとにプロジェクトを実施していますが、今回日本人チームが活動を行ったPathumtaniプロジェクトはハビタットセントラルで取り進めている3つのプロジェクトの一つ（残り2つ



はRayong、Chonburi)として、これまでに約50軒の住宅を建設してきました。建築資材は、強度があり比較的安価なコンクリートブロックが採用されていますが、各ホームオーナーの要望や財政状況等によっては、より強度のある赤レンガや独自

◆ホームオーナー家族からのメッセージ◆

我々家族のためにご支援頂きました皆様、ありがとうございます。今回のハビタットの活動を通じて、忘れることのできない経験をする事が出来ましたこと、とても感謝しています。皆さんの今後の人生が素敵なものでありますように。そして、その中で、我々家族のことを忘れてないで頂ければ幸いです。本当にありがとうございました。

のドア・窓枠の使用、住居増設の受け入れなど、各ニーズに合わせた柔軟な対応で作業を行っています。

ホームオーナー家族

今回の支援先であるNiroot Soirayaさん一家は長年に渡りこの地区に住み、日雇い労働者として働いているNirootさんとパンダナス農園で働くNirootさんの妻Kalyaさんの収入で生計を立ててきました。

Nirootさんの両親は現在の家に引越してくる息子家族3人のために家を建てましたが、5人が住むには十



分なスペースが確保できる状況にはなく、一家の大黒柱であるNirootさんは妻と娘のために生活環境を変えるべく、家を建てたいと考えていました。また、出来るだけNirootさんの両親の近くに住むことを望んでいたところ、ハビタットがPathumtaniで住居支援を行っていることを知り、そして幸運にもNirootさんは彼の両親が住む実家の裏に一家3人が暮らせるスペースの土地を分け与えてもらう事が出来たことで、今回、

住居建築の申込をしてきました。

日本人チーム作業の様子

今回、現地は雨季にもかかわらず連日の晴天にも後押しされ、全国各地から集まった17名（大学生16、社会人1）が限られた時間の中、素晴らしいチームワークを発揮し当初予定していた全作業を完了させました。



初日はまだ屋根も取り付けられていない、直射日光を浴びながらの作業という状況の中、土台作りを、2日目以降はセメント作り、レンガ積みを中心に壁を仕上げる作業を着々と



行いました。夜はホームオーナーやお世話になった大工さんに渡す折鶴作りも行い、4日半という短い日程の中、家の骨格をほぼ完成させることが出来ました。電気水道の配管、トイレ設置などあと2～3週間程度の細かい作業が必要ですが、10月中には入居を予定しています。

青山学院大学 Shanti Shanti : インドネシアGV活動報告&体験記(8/16~31)



上) 建築現場の小学校、右) 現地住民・スタッフと集合写真

家づくりとは？

訪れたのは首都ジャカルタを有するジャワ島西部の都市、バンドン。私達はこの地で小学校と2軒の家の建築作業に携わりました。小学校は古くなった校舎を取り壊し、新校舎の建設を行っていましたが、ハビタットが実施する通常の活動（住居建築）とは違う減多にない経験をすることが出来ました。また、3軒目のホームオーナー家族はハビタットへ申請を出した3年後、ようやく順番が回ってきたという事実を知り、現地における住居建築支援に対するニーズの多さを改めて実感しました。

携わった3軒全てはレンガ造りであったため、作業内容はレンガ運び・積み、土運び、瓦礫運び、土台作り、穴掘り、ペンキ塗りを中心に作業を行いました。どれも単純ではあるけれど根気のいる重労働。活動

中、チームメンバーの中には「もっと“建築”らしいことをしないのか？」という思いも生まれました。しかし、何の知識も技術もない大学生が、現地の大工さんの指導の下とはいえ、壁や土台作りに参加し、人が住む家を建てている。このことを現地で何度も確認しました。そして「こんな単純な作業でも家づくりの大切な一部」というとても大切なことに気付かされるGV活動でした。

帰国後の惨事。私達にできること・・・

帰国から2日経った9月2日。インドネシアでマグニチュード7.3の地震が発生。震源地は西ジャワ島の沖。バンドンからも近く、私達は現地スタッフと連絡を取り、多くの家や建物が全壊・半壊の大きな被害を受けたことを知りました。私達が関わった家や学校の現在の様子はまだ分かっていませんが、ジャワ島では7日にもマグニチュード6.1の地震が起き、ホームオーナー家族、そして現地スタッフの安否が心配されます。私達にできることには限りがありますが、今回のGV活動で学んだように「小さなことから少しずつ」私達にできる支援をしていきたいと思えます。（青山学院大学CC・永岡麻咲、渡邊輝）



グローバルフェスタジャパン2009 出展(10/3~4)



日比谷公園で、「家」建ててきました！

10月3(土)~4(日)に日比谷公園(東京)にて行われた国内最大級の国際協カイイベント「グローバルフェスタ」に今年も参加してきました。2日間で10万人近い来場者が訪れる中、ハビタット・ジャパンもブースを出展。1000人を超える方々と触れ合う機会を持つことができました。

今回、各学生支部(CC&CClub)からの学生スタッフと事務局が事前準備の段階から協力。多くの方々と交流、そしてハビタットの実施する活動への理解を深めてもらう企画を展開しました。ハビタットの最大の特徴を初心



者にも分かりやすく認知してもらうべく、「家、建てています」という建築ボランティアの等身大パネルの看板を立て、内部は座って語れるスペースを構えることでブース自体をハビタットが建設した家に見立てました。中でも、来春2~3月にかけてタイで実施が予定されている「地球の歩き方GV(一般募集チーム)」で現地へ持って行ってもらう折鶴やメッセージを集めるといった参加型の企画を行い、当日は子供からお年寄りまで老若男女問わず、数多くの方々にハビタットの活動の一片に関わっていただく事が出来ました。



また、多くの支援者や関西学生メンバーがブースを訪れ、新たな出会い・再会を喜ぶ場所として、また社会で活躍されている学生OBOGの方が骨休めに帰ってくる「家」としてのハビタットの温かい一面も垣間見ることが出来ました。（明治学院大学CC・田部井彩子）

国内活動報告：クレディ・スイス @ アジア学院

9月12日、金融大手クレディ・スイスの皆さんとアジア学院(栃木県西那須野 www.ari-edu.org)において、学校施設の修繕活動を行ってきました。ここでは、当日の活動の様相についてご紹介します。(東海大学CC・遠藤剛史)



左上) ベンチ製作中



右上) 鶏舎建築作業現場

クレディ・スイスは、2007年からグループ全体を挙げた社会貢献活動への取り組みを進め、今年4月、ハビタット・インターナショナルとの間で「グローバル・ボランティア・パートナーシップ」を結びました。今回の活動はその一環として、栃木県で主にアジアやアフリカにおける農業指導者の育成を行って

いる学校法人アジア学院にて実施してきました。

みんなで力を合わせれば「できる」!

当日は朝からあいにくの雨。屋内では、会議室用の木製ベンチの製作、キッチンでは人参の葉を調理できるよう下ごしらえ等も行う一方、晴れ間を縫って鶏舎の屋根の取付けや冬備えに必要な薪割りを行いまし

た。初めはベンチの設計や雨で滑りやすくなっている屋根上での釘打ちなど苦戦を強いられ、さらに作業は雨で幾度となく中断に追い込まれましたが、全員で意見を出し合い、鶏舎は屋根の取付けまで、ベンチはついに完成に至りました。それぞれの作業で出来る限りを尽くした皆さんの笑顔はとても印象的でした。

職場にはない「絆」が生まれた

作業後、クレディ・スイスの皆さんからは、「最初は雨で不安だったけれど、一日を通して多くのことを経験できて楽しめた!」「是非またやりたい!」「普段話さない別の部署の人と知り合えて良かった!」といった感想を頂きました。自然に囲まれた場所での作業は心身を癒してくれただけでなく、人と人との関係を深めたようにも感じました。

今後もクレディ・スイス、そしてアジア学院と共に、より一層活動の和を広げていきたいと思ひます。

~ 海外通信 ~



オバマ大統領：ハビタットボランティアに!

オバマ米大統領 (President Barack Obama) とミシェル夫人 (First lady Michelle Obama) が2001年9月11日のテロ犠牲者を悼み、「奉仕と追悼のための国民の日 (National Day of Service and Remembrance)」とした9月11日、ワシントンD.C. にてハビタットの活動にボランティアとして参加しました。



上) ワシントンD.C.にて

当日、オバマ大統領夫妻は、ワシントンD.C. 周辺にてハビタットが実施する建築現場を視察し、その後、実際にDeanwoodにてハビタットハウス建築活動を行い、居間の内壁のペンキ塗りでひと汗流しました。(事務局)

<豆知識> 米国歴代大統領もボランティアとしてハビタットの活動に参加しています! 例えば、クリントン元大統領、ブッシュJr.元大統領。また、カーター元大統領もハビタットの熱烈な支援者として広く知られ、毎年、世界各地で「ジミー・カーター・ワークプロジェクト」を開催。今年も11月15~20日にタイ(チェンマイ市)での開催を予定しています。

Japan Campus Chapters 私たち、関西JCCです!!

関西を拠点にハビタット・ジャパンの学生支部として活動を

展開している関西CC&Cclub (Japan Campus Chapters、通称JCC) をご存知ですか? 関西学院大学(2キャンパス)をはじめ、関西大学、同志社大学、京都外国語大学、立命館大学(2キャンパス)と5大学7キャンパスで各CCまたはCclubが活動を展開し、またその7つの関西CC&Cclubが定期的に集まり、月に1回のミーティングや半年に1回合同合宿(JCC合宿)を行い、CC&Cclub間の交流を図っています。

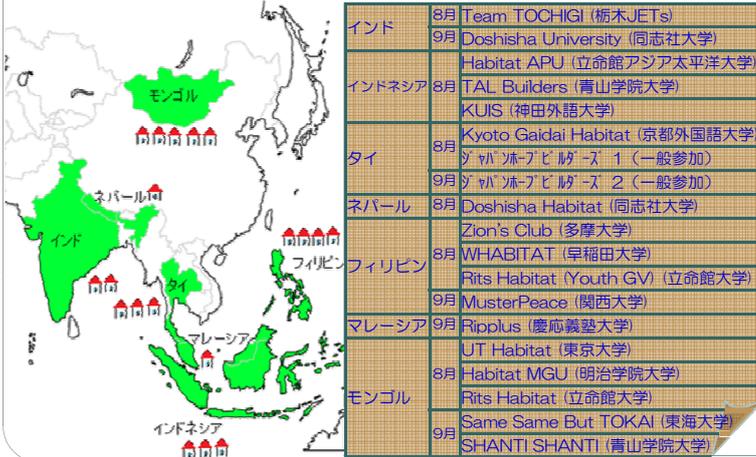
最近では内部交流を目的とした運動会や、写真展などの外部向けのイベントを精力的に実施しています。各JCC合宿への相互参加などによって関西JCCと関東JCCが交流する機会も増え、お互い刺激し合い、ハビタットの活動へのモチベーションも高まってきました! 関西にも関東に負けないうくらい素晴らしいCC&Cclubが集まっています。今後の関西での活動にも乞うご期待ください! (立命館大学CC・小松沙耶、前田潤一郎)



上) 関西JCC運動会の集合写真

2009夏!! 海外建築ボランティア活動国分布図

今夏もアジアを中心に各国・各地域でキャンパスチャプターを中心とする学生チームそして社会人チーム（総勢300名余）が住居建築プロジェクトに参加。今回はネパールへ初の派遣（同志社大学CC）や早稲田大学CCclub、慶応大学、東京大学チームの初参加といった初物尽くしの夏として新たな歴史を刻みました！（東海大学CC・新城洗一）



寄付・助成金リスト (2009.7.1-9.30)

皆様からのご支援は「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせて頂きます。ありがとうございました。（敬称略・順不同）

7/21	(株)レガメント	¥1,500
7/31	ユニテッドピープル	¥1,083
8/4	(株)レガメント	¥1,200
8/14	Kryjier&Ogawa (シンガポール)	¥127,569
8/28	小林 テツ	¥20,000
8/31	(株)レガメント	¥600
8/31	チャリティ・プラットフォーム	¥65,596
9/30	(株)レガメント	¥600

ハビタット用語集

- **GV: グローバル・ヴィレッジ・プログラム**
 ...ハビタットの短期海外建築ワークキャンプ。15~20人のボランティアチームが、通常7~10日間、海外で現地の人々とともに建築活動を行います。
- **CC: キャンパスチャプター (正団体会員) & CCclub: キャンパスクラブ (賛助団体会員)**
 ...学生によって自主運営されているハビタットの学生団体。①建築活動、②啓発活動、③ファンドレイジングを中心に国内外で活発な活動を行っています。

編集後記

◆今夏は300名近いボランティアの皆さんが海外での住居建築活動に参加され、各地で大きな成果を上げてこられました。これらの報告を本紙にまとめている最中、フィリピン水害、インドネシア地震、サモア津波といった災害が次々と起こり、ハビタット・ジャパンに対してもより一層の支援が求められています。その期待に応えるべく、支援者の皆様と連携した組織体制強化を図ってまいりたいと考えています。（事務局・山崎頭太郎）
 ◆今号は夏休み行われた活動報告が盛り沢山！より充実した紙面になるよう、お便りコーナー等の設置を検討中です。質問感想などありましたらお知らせください。（青山学院大学CC・梶川晃）

緊急災害支援のお願い: フィリピン・インドネシア

ハビタット・フォー・ヒューマニティでは、この度、マニラを直撃した台風16号の影響による過去40年間で最悪の洪水被害に対し、200万ドル規模の緊急支援を開始いたしました。また、インドネシア・スマトラ島沖で発生しました大地震被災者に対する災害復興支援を開始いたしました。



ハビタット・ジャパンでは、各国被災者への支援を目的に、義援金の募集を行っています。皆様のご協力をお願いいたします。義援金の振込先は当団体ホームページ (www.habitatjp.org) をご覧いただくか、またはハビタット・ジャパン事務局までお問い合わせくださいます様よろしく申し上げます。（事務局）



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは住宅を建てることでコミュニティーを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく100カ国で30万軒余の住宅建築支援を行ってきました。そして現在、世界中で21分に1軒のペースで住宅を建てています。

〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-17-3
 ベル・パークシティ西新宿217
 Tel: 03-6304-2543 / Fax: 03-6304-2544
 URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人: 芹澤亮子
 編集人: 山崎頭太郎、金城マリ子、山本真太郎、梶川晃 (学生代表)

